

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-322	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Gabapentin treatment for alcohol dependence: a randomized clinical trial. アルコール依存症のための Gabapentin 治療：無作為臨床試験。		
<b>執筆者</b>		
Mason BJ <sup>1</sup> , Quello S <sup>1</sup> , Goodell V <sup>1</sup> , Shadan F <sup>2</sup> , Kyle M <sup>2</sup> , Begovic A <sup>2</sup> .		
<b>掲載誌</b>		
JAMA Intern Med. 2014 Jan;174(1):70-7		
<b>キーワード</b>		
アルコール依存症、ガバペンチン、カルシウムチャネル/ $\gamma$ -アミノ酪酸-調整薬物		
<b>要 旨</b>		
<p><b>重要性：</b> アルコール依存症のための承認された薬物は、米国のアルコール依存患者の 9%未満に対して処方される。</p> <p><b>目的</b> 広く処方されているカルシウムチャネル/<math>\gamma</math>-アミノ酪酸-調整薬物、ガバペンチンが用量依存的な方法で、断酒の継続を増加させ、大量に飲酒しないことの率を上昇させて、アルコール関連の不眠症、神経不安と渴望感を減少させか否かを検討する。</p> <p><b>研究デザイン、参加者と設定：</b> 現在 18 才以上でアルコール依存症の 150 人の男性と女性の二重盲検プラセボ対照、無作為用量変動試験が 12 週間行われた。一般総合病院に隣接した外来患者臨床研究施設の一施設で 2004 年から 2010 年まで行われた。</p> <p><b>介入治療</b> 経口ガバペンチン (0 [プラセボ]、900mg または 1800mg/日の適応量) と付随するマニュアルに書かれたカウンセリング。</p> <p><b>主要なアウトカムと手段：</b> 12 週にわたる完全な断酒と大量飲酒をしない率 (両方が第 1 アウトカム) と気分、睡眠と熱望 (二次アウトカム) の変化を測定する。</p> <p><b>結果</b> ガバペンチンは、断酒率と大量飲酒をしない率を有意に改善した。断酒率は、プラセボ群で 4.1% (95%CI、1.1%-13.7%)、900mg 群で 11.1% (95%CI、5.2%-22.2%)、1800mg の群で 17.0% (95%CI、8.9%-30.1%) であった (線形線量効果のための <math>P = .04</math>;治療必要数 [NNT] 1800mg = 8)。大量飲酒しない率は、プラセボ群で 22.5% (95%CI、13.6%-37.2%)、900mg の群で 29.6% (95%CI、19.1%-42.8%)、1800mg の群で 44.7% (95%CI、31.4%-58.8%) であった (線形線量効果のための <math>P = .02</math>;1800mg のための NNT = 5)。類似の線形線量効果は、気分の計測 (<math>F_2 = 7.37</math>; <math>P = .001</math>)、睡眠 (<math>F_2 = 136</math>; <math>P &lt; .001</math>)、そして、渴望すること (<math>F_2 = 3.56</math>; <math>P = .03</math>) で得られた。重篤な薬物関連有害事象はなかった。そして、有害事象のために終了 (150 人の参加者のうち 9 人)、本研究期間 (平均 [SD]、9.1 [3.8]週) と研究完遂率 (150 人の参加者のうち 85 人) は群の間で異ならなかった。</p> <p><b>結論と関連：</b> 好ましい安全性プロフィールで、ガバペンチン (特に 1800mg の投薬量) は、アルコール依存症と不眠症 (神経不安) の再発関連の症状を治療して、飲酒渴望切望に効果的だった。プライマリケアのアルコール依存症の薬理的処置のさらなる実行は、アルコール依存症治療の選択肢としてのガバペンチンの大きな有益性である。</p>		